

おかやま④ペルソン その1

ハレ晴れ

晴れの国おかやま

人・風土・仕事を結ぶ「思い」を
2枚8頁の紙に書き溜めてみた。



- 山の孤島の養鶏家
- 地元と共にの洋菓子店
- 総社の若き白桃軍団
- 時代を席卷した新食感の葡萄
- れんげ米で餅を搗く山イケメン
- 手掘りが身上の蓮根農家
- 老舗でプロを学ぶ
- 我ら昭和30年代生まれ
- コアな夫婦がつくるアヒルの米
- 1頁の写真館



Editor by
ASHITANE BOO co.
<http://ashitane.com>

おかやま🍷ペルソンハレ晴れ 【あしたねBooのこと】

【編集後記】

まず最初に、このタブロイド紙を製作しようと思いついたのは昨年末のことだった。何らかの形で今まで仕事を通し関わらせていただいたカッコイイ方々を、どこかで紹介したいといった思いは常々抱えていたが、それがウェブなのか印刷物なのか、それとも写真展などの場なのか漠然としたイメージでしかなかった。

そんな時、担当させていただいた「備中食べる通信・おんころりん」の写真を含むデザインワークに、紙媒体の素晴らしさを再認識し、そしてこのタブロイド紙といった具体的なビジョンにたどり着けたのだ。「備中食べる通信おんころりん」製作にお声をかけていただいた編集長・浅原真弓さん、一緒に歩いてくれたライターのエビすあきこさんに心より感謝、本当にアリガトウ。

=====

もともとアパレル関係のデザインに身を置いていた私は、「魅せる」ことを主体としたデザインワークを日々行っていた。そこには流行があり、仕掛けがあり、そしてスピードがあった。とても刺激的でとてもやり甲斐のある仕事ではあったが、本質的な『物語』や『思想』は薄かったように思える。

同時に、プライベートでは幼少期から関心の強かった『食』に触れながら、個人的にスキルや情報を貪欲に吸収する毎日だった。本職では得られない自由や喜びが存在し今考えると仕事、プライベート両者で心のバランスをとっていたのかもしれない。

しかしいつしか日増しに募る「食」への思いに嘘がつけなくてっている自分がいた。所属していたデザイン事務所を卒業し食にまつわる商品プロダクトからグラフィックデザイン、ウェブ 調理から撮影まで網羅する欲張りなデザイン事務所「あしたねBoo」を起業。早いもので今年で足掛け7年になる。

アパレルの仕事は物語や思いが薄いと話したが、「魅せる力」がある。逆に食の仕事は物語や思いがあるのに「魅せる力」が弱い。ならば両者の良いところを集め融合しデザインや写真で表現すれば、きっと今までに無い素晴らしい発信ができるのではないかと! といった五十路に踏み出そうとしている男の青二才発想は、様々な方と繋がることで具体的なカタチを形成し今に至る。やはり仕事とは人の繋がりであり、誠実であり、そして真っ直ぐな思いではないかと、この歳になって改めて思ったりする。

受け取った「思い」を一緒に考え模

